

見てみよう！歴史地震記録と旬のあいち

September 2015 vol.17

September

S	M	T	W	T	F	S	
			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
27	28	29	30				

きたたに 北谷墓地

所在地：半田市柗町
交通：知多バス岩滑線

「知多自動車学校前」停 南西約 200m

昭和 19 (1944) 年に発生した昭和東南海地震では、愛知県で 438 名の方が命を落としましたが、市町村別に内訳をみると、名古屋市が 121 名、半田市 188 名と、この 2 市で実に 7 割以上を占めています。両市は特に周辺地域に比べて震度が高かったというわけではありませんが、共通する特徴として多くの軍需工場があったことが挙げられます。当時は戦争中で、各地に戦闘機を作る軍需工場が存在していましたが、名古屋市南部地区や半田市には、有力な軍需工場が集中していました。

名古屋市では臨海部の埋め立て地に三菱重工の飛行機関連工場がひしめいており、このうち南区の道德工場ではレンガ造りの建物が震度 6 弱の揺れで倒壊し、学徒動員で全国から集められたり、朝鮮半島から女子勤労挺身隊として駆り出されていた少年少女を含む 57 名が、倒壊した建物の下敷きとなり命を落としています。また、半田市には中島飛行機の本工場、葭野工場、山方工場の 3 工場がありましたが、特に葭野工場、山方工場の被害がひどく、三菱重工道德工場と同様に全国から動員されていた学徒が合わせて 150 名以上、命を落としています。

三菱重工道德工場や中島飛行機山方工場は、もともとは紡績工場であったものを戦時下の飛行機の増産体制に合わせて軍需工場に改造していましたが、戦争により耐震基準

が廃止されていたことから、建築構造上必要となる壁や柱を取り除いていたことが被害を大きくした原因とも言われています。(道德工場から山崎川を挟んだ向かい側、同じ埋立地に立っていた三菱重工大江工場や、もともと軍需工場として作られていた中島飛行機本工場では、被害は軽微でした。)

中島飛行機は、地震の翌年(昭和 20 年)4 月に国策で第一軍需工廠第三製造廠として国有化されますが、国有化される前に、昭和東南海地震により作業中に一命を失われた従業員、女子挺身隊、動員学徒などの霊を慰めるため、「震災殉難者之塔」(木製の柱)を建立しました。戦後、占領軍の命令で、軍需目的の飛行機生産が中心だった中島飛行機は解体されますが、塔は後継会社の愛知富士産業株式会社、輸送機工業株式会社と引き継がれて、就業中の不慮の災害により殉職された従業員の方々も合わせてお祀りされてきました。やがて塔が朽ちてきたため、昭和 30 年 12 月 7 日には「殉職者諸精霊之塔」として再建され、さらに輸送機工業の会社創立 30 周年にあたる昭和 55 年 12 月に、改めて石製の碑として建立されます。この「殉職者諸精霊之碑」が半田市柗町の北谷墓地にあります。

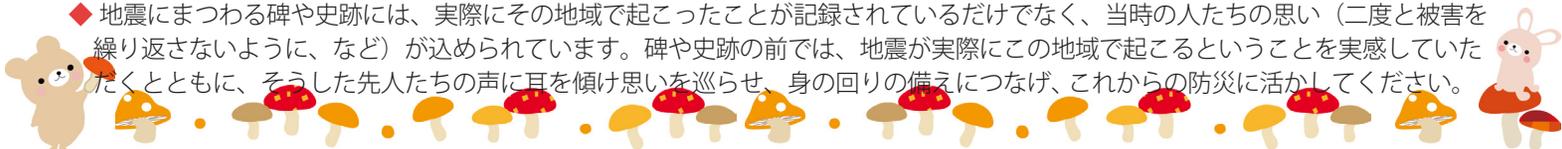
なお、半田市はごんぎつねの作者、新美南吉のふるさとであり、この北谷墓地には新美南吉の墓もあります。



殉職者諸精霊之碑



◆地震にまつわる碑や史跡には、実際にその地域で起こったことが記録されているだけでなく、当時の人たちの思い(二度と被害を繰り返さないように、など)が込められています。碑や史跡の前では、地震が実際にこの地域で起こるということを実感していたくとも、そうした先人たちの声に耳を傾け思いを巡らせ、身の回りの備えにつなげ、これからの防災に活かしてください。



◆北谷墓地の周辺には…

●半田市役所（東南海地震の碑）

所在地：半田市東洋町

交通：JR 武豊線「半田」駅 東約 700m

この碑は、半田市役所の敷地内に建てられています。正面には「東南海地震被災の地」、側面には「中島飛行機山方工場跡」、「一九四四・一二・七 学徒従業員など犠牲者一五三人」と刻まれています。なお、半田市役所では、「現代の蔵」をイメージし、最新の免震構造を取り入れた新庁舎が平成 26 年 12 月に完成しています。



●雁宿公園（追憶之碑ほか 2 基）

所在地：半田市雁宿町

交通：名鉄河和線「知多半田」駅 北西約 800m

雁宿公園には、昭和 19 年昭和東南海地震で亡くなった動員学徒らを追悼する「半田・戦災犠牲者追悼平和記念碑（左）」「殉難学徒之碑（中）」「追憶之碑（右）」が建てられています。



◆詳細な地図は表面及び『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をご覧ください。

★ごんの秋まつり

9 月から 10 月にかけて、半田市と阿久比町の境を流れる矢勝川^{やかち}の堤防約 1.5km に 200 万本の彼岸花が咲き誇ります。矢勝川は半田出身の児童文学者・新美南吉の「ごんぎつね」にも出てきた、兵十やごんがウナギなどを捕っていた川で、真っ赤な絨毯を敷いたような彼岸花がとても素敵です。

南吉生誕の地・半田市岩滑地区では、この彼岸花の時期に合わせて「ごんの秋まつり」が開催されます。（平成 27 年は 9 月 18 日～10 月 4 日）

期間中は、彼岸花の絨毯が敷かれた童話の村で聞く街頭紙芝居で南吉童話の世界に触れたり、古き良き時代を思い起こさせる花嫁行列を見ることができます。半田の史跡の見学とともに、彼岸花の赤い絨毯をぜひご覧ください。



9月のあいちの花

平成 27 年 9 月のあいちの花は小ギクです。花の直径が 1cm から 3cm 程度の菊を小ギクと呼んで分類しています。中国の宮廷において菊は不老長寿の薬効があるとされ、陰暦の 9 月 9 日（重陽の節句^{ちやうよう}）には菊の花を酒杯に浸した菊酒を飲み、長寿を祈願したと言われています。この風習は日本にも伝わり、「重陽の節会^{せちえ}」となりました。



●ブレイクタイム●

♪新美南吉記念館

新美南吉記念館は、童話「ごんぎつね」の作者で半田市出身の児童文学者・新美南吉の顕彰を目的に、平成 6 年に設立された記念文学館です。

記念館では、作品原稿、日記、手紙などの資料に加え、6 つの作品のストーリーを模型で紹介するジオラマ展示やビデオシアター、視聴覚コーナーなどが用意されており、南吉文学初心者の方や子どもたちにもわかりやすい展示となっています。

また、記念館の周辺には、南吉の生家、養家、作品舞台になった山川、社寺、彼が学んだ学校などがあり、それらを巡る文学散歩コースも整備されています。



『新美南吉記念館』

所在地：愛知県半田市岩滑西町 1-10-1

交通：名鉄河和線「半田口」駅 徒歩 20 分

◆この地域の地震・津波に関する碑・史跡、資料・体験談集、地域に残る古文書、研究資料、郷土史研究者・団体などの情報がありましたら、gensaisan2014@gmail.com まで情報をお寄せください。

◆県内の歴史地震記録をホームページで紹介しています。各地の碑や史跡等にご興味をお持ちいただけましたら、『歴史地震記録に学ぶ 防災・減災サイト』（<http://www.pref.aichi.jp/bousai/densho/index.html>）をぜひご覧ください。

（発行：減災の会（仮称）・名古屋大学減災連携研究センター 平成 27 年 9 月）

